

# 1. 宮津市由良地区文化遺産調査 報告会

岸 泰子

## 1. 概要

歴史学科では、地域貢献型特別研究 ACTR で北前船の船持や船頭を多く輩出した宮津市由良地区の特性を見いだすべく文化遺産の総合調査をおこなっている。今年度は、研究課題を「海の京都」の拠点・宮津市由良の「船」に関わる遺産の発掘・活用―由良神社を中心に―とし、引き続き、由良神社などに残る文化遺産の調査を実施した。

由良神社を対象とした調査の結果、軍艦由良に関する文書などを確認したほか、近代の社殿造営と地元や海軍とのかかわりなどを明らかにすることができた。

そこで、今年度は神社氏子や地元の方々に調査の経緯や成果を知っていただくため、現地にて調査成果報告会を実施した。

## 2. 報告会

報告会は 12 月 5 日（日）13 時 30 分から 15 時 30 分にかけて、由良地区公民館・オンライン（事前申し込み制）で実施した。

報告会では、本学科が行った文化遺産調査の成果とともに、以前から軍艦由良を含めた軍艦に関する研究会を由良神社で実施されていた U P F G 艦艇資料研究会の方々の活動報告・成果も披露された。

本学科からは、調査に携わった 4 回生（長谷川巴南、正瑞千幸、上田亜美、守田悠）が、古文書調査・建造物調査・石造物（考古）調査の成果を発表した。古文書・建造物調査の成果として、近代では軍艦由良とのかかわりが由良神社の社格上昇につながっており、さらに軍艦由良からの支援もうけて再建された社殿が社格造営にも関わっていたことなどが報告された。また、石造物（考古）調査からは、本殿の前にある狛犬（近世前期から中期）が丹後特有の形態をもち、なおかつ神社に残る文化遺産のなかでも古いものであることなどが示された。

報告会には、対面は約 60 名、オンラインは約 30 名の参加があった。報告会の様子は、翌日の京都新聞でも紹介されるなど、各所から反響があった。



写真 1 報告会風景

